

インドネシアでの環境教育活動を終えて、弥永真以さんが堤学長に帰国報告

高度グローバル人材育成プログラムの一環として、2024年2月から9月まで「JICA 海外協力隊」としてインドネシアに派遣された弥永真以さん（大学院アドミニストレーション研究科 博士前期課程3年）は、10月3日に堤学長に帰国報告を行いました。

弥永さんは、北スマトラ州デリセルダン県の環境局で、小学校を対象に楽しく学べるごみ分別教育を実施しました。ごみの分別がまだ習慣化していない地域で、彼女はオーガニックごみ、資源ごみ、埋め立てごみの3種類に分けるために、3色の「怪獣の箱」を使ってわかりやすく教えました。最初はインドネシア語で準備した台本を読んで説明していましたが、次第に暗記して子供たちに直接語りかけるようになると、子供たちの表情が真剣になり、心の通じるコミュニケーションの大切さを実感したそうです。

この活動を通じて、弥永さんは「外国がぐっと近く感じられ、どこに行っても自分は生きていける」という自信を得ました。また、日本を外から見ることでその素晴らしさを再認識し、さらに日本文化を外国の方々に紹介したいという意識が高まり、日本文化の習得や英語力の向上にも意欲を示しています。

堤学長は、かつてペリーが日本を訪れた際に「町の清潔さに驚いた」というエピソードを引き合いに出し、「若い頃に異文化に触れ、それを乗り越える経験は貴重です。英語を通じて、さらに多くの人と交流し、世界を広げてください」と激励しました。また、この貴重な体験をぜひ他の学生とも共有してほしいと話しました。



堤学長（右）と伝統的な染織バティックの衣装でインドネシアを指さす弥永さん（左）